

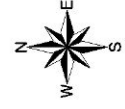
# 凡例

● : 哺乳類の確認位置

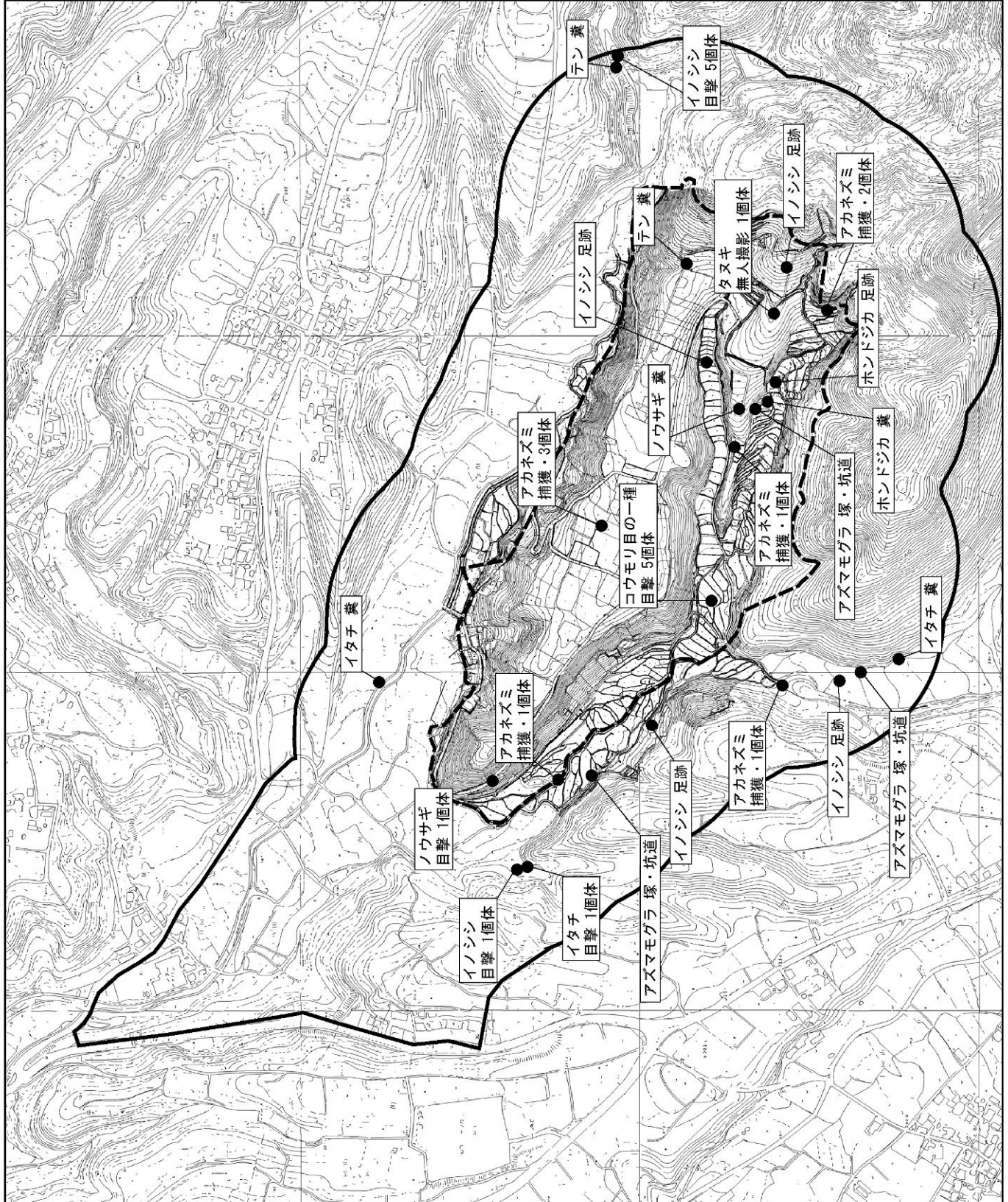
○ : 調査範囲

□ : 対象事業実施区域

図6-12-3 (3)  
哺乳類の確認位置  
(春季: H20年5月)



S=1:8,000



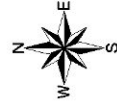
# 凡例

● : 哺乳類の確認位置

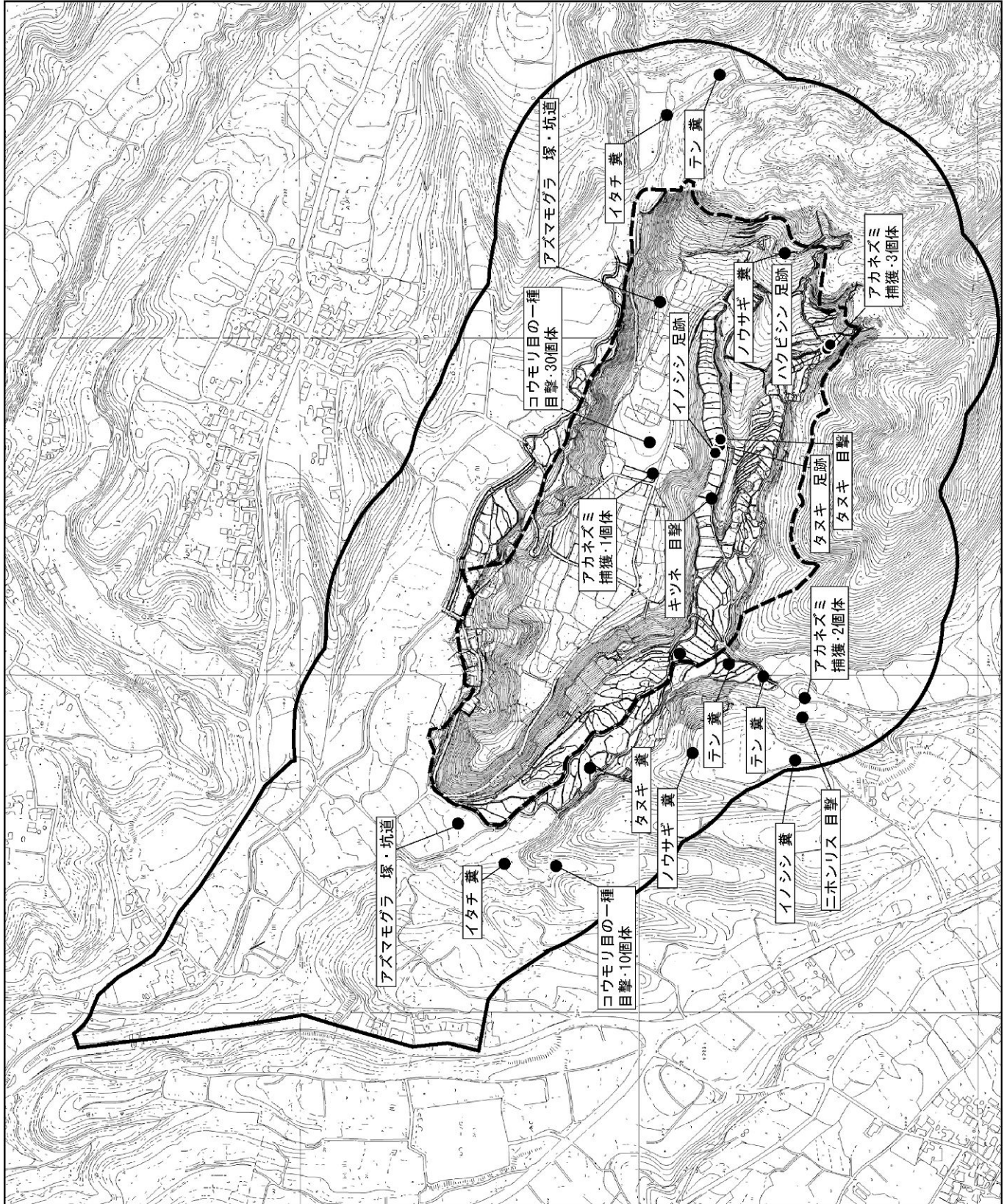
○ : 調査範囲

□ : 対象事業実施区域

図6-12-3 (4)  
哺乳類の確認位置  
(夏季: H20年7月)



S=1:8,000



## ② 鳥類

### ア 確認概要

調査の結果、調査範囲から 13 目 34 科 80 種の鳥類が確認された。このうち対象事業実施区域内からは 65 種が、対象事業実施区域外からは 71 種が確認された。確認種を表 6-12-8(1)～(2)に示す。

ツツドリやキビタキなど樹林に生息する種が多く確認され、山地と隣接する調査範囲の環境をよく示す結果となっている。また調査範囲は調整池や水路に加え、水田や耕作地が広がっているため、サギ類やカワセミなど河川や水辺を好む種、アリスイやホオジロなど疎林や草地を好む種、ムクドリやスズメなど耕作地や民家周辺を好む種などが確認された。猛禽類においてもオオタカなど樹林や林縁部を主に利用する種、サシバなど水田や開けた環境を主な狩り場とする種が確認された。

渡り区分については、留鳥が 43 種、夏鳥が 24 種、冬鳥が 9 種、漂鳥が 4 種であった。

表 6-12-8 (1) 鳥類確認種目録

番号	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		渡り区分		
				内	外			
1	ペリカン目	ウ科	カワウ	●	●	留鳥		
2	コウノトリ目	サギ科	ミゾゴイ	●	●	夏鳥		
3			ゴイサギ	●	●	夏鳥		
4			ダイサギ		●	夏鳥		
5			コサギ		●	留鳥		
6			アオサギ	●	●	留鳥		
7	カモ目	カモ科	カルガモ	●	●	留鳥		
8	タカ目	タカ科	ハチクマ	●	●	夏鳥		
9			トビ	●	●	留鳥		
10			オオタカ	●	●	留鳥		
11			ツミ	●	●	夏鳥		
12			ハイタカ		●	留鳥		
13			ノスリ	●	●	留鳥		
14			サシバ		●	夏鳥		
15				ハヤブサ科	チョウゲンボウ		●	留鳥
16			キジ目	キジ科	コジュケイ	●	●	留鳥
17		キジ			●	●	留鳥	
18	ヤマドリ	●				留鳥		
19	チドリ目	チドリ科	コチドリ		●	夏鳥		
20	ハト目	ハト科	ドバト	●	●	留鳥		
21			キジバト	●	●	留鳥		
22			アオバト	●	●	留鳥		
23	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	●		夏鳥		
24			ツツドリ	●	●	夏鳥		
25			ホトトギス	●	●	夏鳥		
26	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	●	●	留鳥		
27	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	●		夏鳥		
28	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	●	●	留鳥		
29	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	●	●	冬鳥		
30			アオゲラ	●	●	留鳥		
31			アカゲラ	●	●	留鳥		
32			コゲラ	●	●	留鳥		
33	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	●		留鳥		

表 6-12-8 (2) 鳥類確認種目録

番号	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		渡り区分	
				内	外		
34	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	●	●	夏鳥	
35			コシアカツバメ		●	夏鳥	
36			イワツバメ	●	●	夏鳥	
37		セキレイ科	キセキレイ	●	●	留鳥	
38			ハクセキレイ	●	●	留鳥	
39			セグロセキレイ	●	●	留鳥	
40			ビンズイ	●	●	夏鳥	
41		サンショウクイ科	サンショウクイ	●	●	夏鳥	
42		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	●	●	留鳥	
43		モズ科	モズ	●	●	留鳥	
44		ミソサザイ科	ミソサザイ	●	●	留鳥	
45		イワヒバリ科	カヤクグリ		●	漂鳥	
46		ツグミ科	コマドリ		●	夏鳥	
47			ルリビタキ	●	●	漂鳥	
48			ジョウビタキ	●	●	冬鳥	
49			ノビタキ		●	夏鳥	
50			トラツグミ		●	漂鳥	
51			アカハラ	●		冬鳥	
52			シロハラ	●	●	冬鳥	
53			ツグミ	●	●	冬鳥	
54			チメドリ科	ガビチョウ	●	●	留鳥
55			ウグイス科	ヤブサメ	●		夏鳥
56				ウグイス	●	●	留鳥
57		オオヨシキリ		●		夏鳥	
58		メボソムシクイ			●	夏鳥	
59		センダイムシクイ		●		夏鳥	
60		ヒタキ科	キビタキ	●	●	夏鳥	
61		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	●		夏鳥	
62		エナガ科	エナガ	●	●	留鳥	
63		シジュウカラ科	コガラ		●	留鳥	
64			ヤマガラ	●	●	留鳥	
65			シジュウカラ	●	●	留鳥	
66		メジロ科	メジロ	●	●	留鳥	
67		ホオジロ科	ホオジロ	●	●	留鳥	
68			カシラダカ	●	●	冬鳥	
69			アオジ	●	●	漂鳥	
70		アトリ科	カワラヒワ	●	●	留鳥	
71			マヒワ		●	冬鳥	
72			ベニマシコ	●	●	冬鳥	
73			イカル	●	●	留鳥	
74			シメ	●	●	冬鳥	
75		ハタオリドリ科	スズメ	●	●	留鳥	
76		ムクドリ科	ムクドリ	●	●	留鳥	
77		カラス科	カケス	●	●	留鳥	
78			オナガ		●	留鳥	
79			ハシボソガラス	●	●	留鳥	
80			ハシブトガラス	●	●	留鳥	
合計		13 目	34 科	80 種	65 種	71 種	-

注 1. 目録は「河川水辺の国勢調査」(財団法人リバーフロント整備センター)に準拠した。

注 2. 渡り区分については「日本の野鳥 590」(2000 年、(株)平凡社)に従った。なお、外来種であるドバトとガビチョウは留鳥として扱った。

イ ラインセンサス調査結果

ア) 確認種一覧

ライン A~D における調査結果を、季節別、環境別の確認個体数を表 6-12-9、表 6-12-10 に示す。  
この集計結果に基づき、季節別の確認状況及び環境別の確認状況を考察した。

表 6-12-9 季節別の確認個体数

種名	秋季	冬季	春季	初夏季	渡り 区分
アオサギ				1	留鳥
カルガモ		1	5	5	留鳥
オオタカ		1		1	留鳥
ノスリ		3	1		留鳥
コジュケイ	5	7	5	6	留鳥
キジ		2	1	1	留鳥
ヤマドリ	2				留鳥
キジバト	4	12	4	8	留鳥
ツツドリ			2		夏鳥
ホトギス				1	夏鳥
カワセミ		1	1	2	留鳥
アリスイ	1		1		冬鳥
アオゲラ		3	1		留鳥
アカゲラ	1	1			留鳥
コゲラ	4	1	3	5	留鳥
ヒバリ				1	留鳥
ツバメ			3	41	夏鳥
イワツバメ			5		夏鳥
キセキレイ	3	2	1		留鳥
ハクセキレイ			1		留鳥
セグロセキレイ	5	7	2	3	留鳥
ビンズイ	1				夏鳥
サンショウクイ				1	夏鳥
ヒヨドリ	27	17	38	38	留鳥
モズ	8	9	2		留鳥
ミンサザイ		4			留鳥
ジョウビタキ		2			冬鳥
シロハラ	5				冬鳥
ツグミ		10			冬鳥
ガビチョウ	29	13	37	27	留鳥
ウグイス	3	17	15	11	留鳥
オオヨシキリ				1	夏鳥
キビタキ			1	1	夏鳥
サンコウチョウ			1		夏鳥
エナガ	6	14	6		留鳥
ヤマガラ	3	1			留鳥
シジュウカラ	5	5	6	8	留鳥
メジロ	15	21	17	12	留鳥
ホオジロ	18	80	14	6	留鳥
カシラダカ		96			冬鳥
アオジ		9			漂鳥
カワラヒワ	7	23	13	7	留鳥
ベニマシコ		6			冬鳥
イカル	2	12	3		留鳥
シメ		28			冬鳥
スズメ	40	72	17	26	留鳥
ムクドリ			7	2	留鳥
カケス		1			留鳥
オナガ				2	留鳥
ハシボソガラス		13	1		留鳥
ハシブトガラス	3	49	14	4	留鳥
合計	197	543	228	221	

表 6-12-10 環境別の確認個体数

種名	広葉 樹林	竹林	乾性 草地	耕作地	水田	開放 水面	個体数 総計
アオサギ					1		1
カルガモ				3	8		11
オオタカ	1	1					2
ノスリ	1				3		4
コジュケイ	6	10	4	3			23
キジ			1	3			4
ヤマドリ			2				2
キジバト	3	2	2	12	9		28
ツツドリ	2						2
ホトギス					1		1
カワセミ					1	3	4
アリスイ	1		1				2
アオゲラ	3	1					4
アカゲラ	1			1			2
コゲラ	10			2	1		13
ヒバリ				1			1
ツバメ	1		2	3	38		44
イワツバメ				5			5
キセキレイ				1	3	2	6
ハクセキレイ				1			1
セグロセキレイ				9	7	1	17
ビンズイ			1				1
サンショウクイ	1						1
ヒヨドリ	59	11	4	43	3		120
モズ	4	1	7	5	2		19
ミンサザイ	3	1					4
ジョウビタキ	2						2
シロハラ				5			5
ツグミ	4			3	3		10
ガビチョウ	57	22	9	18			106
ウグイス	12	13	17	4			46
オオヨシキリ			1				1
キビタキ	2						2
サンコウチョウ	1						1
エナガ	20	6					26
ヤマガラ			3	1			4
シジュウカラ	15		2	7			24
メジロ	23	20	9	13			65
ホオジロ	6	1	84	20	7		118
カシラダカ			63	20	13		96
アオジ		1	8				9
カワラヒワ	22	1	10	15	2		50
ベニマシコ			6				6
イカル	2		12	3			17
シメ	4		1	21			28
スズメ	3		37	65	50		155
ムクドリ				9			9
カケス	1						1
オナガ	2						2
ハシボソガラス				8	6		14
ハシブトガラス	6	13	16	12	23		70
合計	278	104	302	316	183	6	1189

イ) 季節別の出現状況

季節別の出現状況を渡り区分および種ごとに、確認個体数によって6段階（1～5羽、6～10羽、11～20羽、21～30羽、31～50羽、51羽以上）に区分し、帯グラフ状にまとめた。これを表6-12-11に示す。また、以下に季節ごと、渡り区分ごとの出現状況についてまとめた。

ア) 調査実施時期別の確認状況

● 秋季

秋季調査では、ヒヨドリやガビチョウ、スズメなどの留鳥が多く確認されており、秋季全体の確認種数23種のうち20種と8割以上が留鳥であった。なお、ラインセンサス調査での秋季の合計個体数は197個体と4季で最も少なかった。

● 冬季

冬季調査は4季で最も確認個体数が多く543個体が確認されており、他の3季の2倍以上の個体数になっている。冬鳥であるツグミやカシラダカ、シメが多く確認されたほか、留鳥でもメジロやホオジロ、カワラヒワ、スズメなどが冬季に最も多い個体数が確認されている。確認種数も34種と最も多い。

● 春季

春季調査では、4季で2番目に確認種数および確認個体数が多く、31種、228個体が確認されている。夏鳥であるツツドリやイワツバメ、サンコウチョウなどが春季のみに確認されており、留鳥でもヒヨドリやガビチョウ、ムクドリなどの個体数が多くなっている。

● 初夏季

初夏季調査では、26種、221個体が確認され、夏鳥であるツバメが多数確認されたほか、同じく夏鳥のホトトギス、サンショウクイ、オオヨシキリなどが初夏季のみに確認されている。

イ) 渡り区分別の確認状況

● 留鳥

ラインセンサス調査で確認された留鳥は34種であり、ヒヨドリやガビチョウ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメなどは4季を通じて個体数が多くみられている。

● 夏鳥

ラインセンサス調査で確認された夏鳥は9種であり、ツバメが多く確認されている。

● 冬鳥・漂鳥

ラインセンサス調査で確認された冬鳥は7種であり、ツグミやカシラダカ、シメなどが多く確認されている。漂鳥はアオジ1種が確認され、冬季のみに確認されている。